

●有度地域に伝わるヤマトタケル伝説

地域内には20余の伝説が伝えられている。他地域に比較して極めて多く存在し、かつ、草薙地内に集中している。

発祥の時期は不詳であるが、草薙神社の信仰が広まるとともに創作されたものと推察される。



●伝説の内容と発祥地

- ① 御犬ヶ森 字御犬ヶ谷
尊が狩りの時、犬を放った所という。かつて犬の栖があったと社記に記されている。(神社の南方)
- ② 手水ヶ谷 字手水ヶ谷 970
尊が狩りで汗をかいた折り、ここの清水で手を洗われた所という。
- ③ 鞍下ヶ谷(鞍卸ヶ谷) 字鐙ヶ谷 986
尊が野火の難に遭った時、鞍より下りた所という。
- ④ 御座の松
尊が狩りの時、松を折り敷き、憩いをとった場所といわれ、松の下に小祠を建て、大山祇尊を祀り、草薙神社の奥の院という。
- ⑤ 柳ヶ沢
尊が狩りをした時昼食に柳を折って箸とした所。草薙神社の祭事には必ず柳箸を使用している。
- ⑥ 首塚稲荷 字東山1124
尊が征伐した賊徒の首を埋めたと伝えられる場所である。後世、野狐の栖が多くなり、一社を建て稲荷の神(宇迦之魂)を勧請した。昔はこの地から多量の人骨や古武器が出土したらしい。
- ⑦ 東護の森(社) 字東護1154
尊が賊徒を鎮圧した後、戦勝を報告し、さらに東方鎮定の祈願をするために、天照皇大神を祀った所という。景行天皇40年の創建と伝えられる。
- ⑧ 駒ヶ原 大字馬走字駒ヶ原
尊が駒を放ち、草を与えた所という。クマンバラという。
元は草薙に属したが、何時の時代か馬走に売渡された土地といわれる。
- ⑨ 天皇社 字天皇原61番地
景行天皇が日本武尊を偲び、この地に行幸した時、鳳輦を留めた場所と伝えられ、この地に天皇の神霊を遷した天皇社(明治末年草薙神社に合祀)を建て祀っていた。古地名ではこの一帯を天皇原と呼ぶ。
- ⑩ 古宮 字天皇原56番地
草薙神社が最初に創建された所。
古伝では、景行天皇53年、天皇が東国に巡幸の時、日本武尊を偲び社を建てたという。
現在、小社が存在する。

有度ふるさと研究会 有度まちづくり推進委員会